

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成30年5月26日(土) 15:18～15:27 於) 福島市杉妻会館)

1. 発言要旨

今回の検討会では、「ロードマップ2020」のフォローアップと、将来像実現の加速化に向けた取組、先ほど私が述べました五つの重点テーマについて、いろいろな御助言を頂きました。

議論の中では、復興の取組の進捗に関する御発言として、取組が順調に推移しているというものや、福島イノベーション・コースト構想に関する取組や、特定復興再生拠点の整備に向けた取組など、この1年で大きく進捗した取組への期待や、今後の取組の重要性に関するものなどがございました。

また、今後の課題に関することとして、2020年以降の財源の確保や、国の支援に関する御発言もございました。

福島の復興は中長期的な対応が必要なため、2020年以降も国が前面に立って取り組むことが必要です。頂いた御意見をしっかりと受け止めて検討をしてまいりたいと、このように考えております。

そのほか、各首長、そして、県の皆様方からは、今後の課題に関する御発言として、スクールカウンセラーの設置、保育士等の確保など、教育・子育て環境の整備・充実にするもの、様々な産業分野や役場職員の人材不足、介護に関する人手不足、介護サービスの増加に伴う問題等々でございます。また、有害鳥獣対策なども御意見がございました。

また、有識者委員の方々からは、今後の広域連携の重要性、いわゆる避難先とふるさととのつながりを、避難先で暮らしている子供たちにきちんと意識付けをして、ふるさとを忘れないでほしいという、そういうことが重要だということと、大学との連携に関する御助言、例えば、福島イノベーション・コースト構想で、新しい産業を創っていくわけですが、将来そういう方向に行きたいと考えている浜通りに学んでいる中学生や高校生にとって、具体的にどういうところにどういう企業があるのかなどという情報があまりないなど、そういう貴重な御意見も頂きました。

また、廃炉と復興との関わりも、きちんともっと表に出すべきだとか、イベントの活用、スポーツや、お祭りを通じたイベントを多くやるべきだとか、いろいろ御意見を賜ったところです。

今後、本日頂いた御意見をしっかりと受け止めて、関係者と連携して取り組んでまいりたいと思います。あとは、事務方の方から詳細な説明がございます。

以上です。

２．質疑応答

（問）大臣の方から今日示された１２市町村の将来像の実現加速化に向けた五つの重点テーマについて、いずれも大事なテーマだと思うのですが、特にここがこのタイミングでどうしても大事だというのは。

（答）全部大事ですね。全部大事です。ただ、そこで１２市町村の外から人材を確保してくるというところは、その中でも新たな切り口かなというふうに思っています。

それぞれ避難先でもう７年間、根っこを張って、子供も大きくなって、なかなか帰りたくとも帰れる状況にはないというところが子育て世代の大きなところでございますので、そういう世代は避難先で生活をきちんとやっていただき、教育もやっていただく。でも、そのほかに、外から有為な人材を、来ていただくという事業もこれから取り組んでいく。これも大事な仕事かなと思います。

（問）その人材の外からの確保という部分で、先ほど役場の人の不足とか、介護の不足とかというのをおっしゃっていましたがけれども、具体的に復興庁としてどのようなことを取り組んでいきたいとか、もし念頭にあるものがあれば、教えてもらいたいのですけれど。

（答）昨年、岩手・宮城・福島３県合同で、東京都ご協力のもと、都庁をお借りして、募集説明会を行い、今年も開催します。

昨年は、３県で２７０名の定員のところに、８００人以上の応募がございました。そして、二百三十何名という方が採用され、ほぼ定員数が採用されたわけです。こちらは、任期付きの県職員の募集ですけど、例えば、震災から間もない初期のステージでは保健師さんという要望は少なかったんですけど、最近は保健師さんを必要とするという、復興のステージにより、募集人材の職種の変化もございますので、そういうことも踏まえて復興庁として取り組んでいるところです。

（問）先ほど、有識者の方から、廃炉と復興との関わりについての重要性、指摘があったと思いますが、大臣としてはこれについて、どのようにこれから取り組んでいくお考えでしょうか。

（答）廃炉は３０年、４０年掛かると言われるくらい、長い期間を要します。廃炉は、いわゆるオンサイト、オフサイトに分けますと、オンサイトは経産省の仕事、オフサイトは復興庁の仕事という形で、役所的には分けておりますけど、現実に浜通り地方においては、廃炉の作業に携わる方々もオフサイトに住んでいるわけでございますので、今少し復興と廃炉をもっとこう関連付けて、これからの復興行政を組み立てていくべきだという御意見がございましたので、私もなるほどなと、その御意見は聞いておりました。

ですから、これから廃炉をきちんと進めるうえで、廃炉事業と復興事業は少しオーバーラップさせられるような、そんなことも必要だな、こう思います。

(以 上)